

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101174
法人名	社会福祉法人 日新会
事業所名	グループホーム あかし 貳番館
所在地	甲府市上町2473
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 28 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあかしでは、その人がその人らしくをモットーに自立支援を行っています。スタッフは入居者様の出来ることは奪わないよう支援しています。食事メニューは、スタッフが入居者様と一緒に考え、一人一人に合った形態で提供しています。排泄は入居者様の排泄パターンを把握し、出来るだけオムツなどは使わず、マイパンツで過ごして頂いています。身体拘束、虐待などは何年も前から廃止し、それを実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から入り畑に囲まれた静かな環境に位置しています。地域に高齢者が多く馴染みのあるところで暮らしたい、そんな声から2つのホームが設立されました。壹番館は施設の建物の中に、貳番館は近くの敷地にあります。2ユニットとして地域との付き合いを大切に、理念にある「明るく、楽しく、自分らしく地域と共に歩む」を職員、利用者と一緒に取り組んでいます。災害対策では法人内の協力ももとより地域の協力的体制もしっかりできていました。また法人外の高齢者福祉施設の協力的体制もあり、避難の受け入れを行っていました。コロナ禍ですがお弁当を持っての外出、出勤を利用し食事を楽しんだり、安全安心を考慮した地域交流がされていました。利用者が「ここで暮らして良かった」と思える支援の提供をこれからもお願いいたします。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム あかし

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所名		外部評価	
			ユニット名(栴番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、自分らしく、地域と共に歩む」を基本理念としスタッフ全員で今年度の理念「入居者様の出来る事を理解し寄り添い一日一日を明るく過ごす」に向かって取り組んでいる。	「明るく、楽しく、自分らしく、地域と共に歩む」を基本理念に掲げスタッフ全員で今年度の理念「個性を尊重し笑顔ある日々を支援する。」に向かって取り組んでいる。	法人の理念を基に、事業所の中で利用者の様子や希望をくみ取り職員間で毎年作成されていました。利用者個人の生活を基にその方の能力を発揮して自立した生活が送れることを目指した理念が作成されています。また理念は利用者が書いた物がホールに掲げられ親しみやすく取り組まれていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回しホームの様子を知らせている。	回覧板を回しホームでの様子を知らせている。	地域にはホームの様子が回覧版で伝えられ、地域との繋がりが持たれていました。地域、自治会等の行事、文化祭、道祖神祭り、運動会等に参加されていました。子ども100番の活動もあり子どもたちには施設の開放を行い、学校帰りのトイレ利用などを行っていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に「認知症について」を書き認知症の理解を広めている。	回覧板に「認知症について」を書き認知症の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の拡大の為、書面開催ではあるがお手紙、お電話などで意見を聞き仕事に反映させている。	コロナウイルス感染症拡大の為、書面開催ではあるがお手紙、お電話などで意見を聞き仕事に反映させている。	運営会議は2か月に1回実施予定をしていましたが、コロナ禍のため書面で行い意見の反映に努めていました。通常の運営会議は家族、地域役員、有識者、行政関係者等15名が参加され支援の内容の検討や意見を聞き、反映させ、次回の会議でも振り返り、反映させていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアプランについて記入方法などを聞いている。	ケアプランについて記入方法などを聞いている。	ケアプランは、行政担当者と検討しアドバイスを受けていました。利用者を中心にその方の希望されるケアプランが立案されているか、納得するプランの作成ができていないかを検討していました。職員の質の向上を図り利用者、家族の希望するプランに沿えるように工夫されていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ徹底して拘束ゼロに取り組んでいる。2か月に1度の職員会議のなかで研修を行い、職員間で共有している。	身体拘束排除宣言を掲げ徹底して拘束ゼロに取り組んでいる。2か月に1度の職員会議のなかで研修を行い、職員間で共有している。	身体拘束ゼロに取り組んでいました。2か月に1度グループホームでの委員会も開催され問題点を検討していました。毎日の職員会では言葉のかけ方、支援内容に問題がないか、話し合われていました。職員同士の声掛けも行われていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行い、虐待は行っていない。	高齢者虐待防止についての研修を行い虐待は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を随時行っている。1名が成年後見人制度を利用している。	研修を随時行っている。1名が成年後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際説明を行い同意を得ている。	契約を行う際説明を行い同意を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム あかし

自己	外部	項目	事業所名		外部評価	
			ユニット名(栞番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、面会時に要望を聞くようにしている。又、今はコロナウイルス拡大の為お電話にて要望を聞いている。	アンケートを実施し、面会時に要望を聞くようにしている。面会がコロナウイルス拡大の為お電話にて要望を聞いている。	アンケートは年2回行われていました。家族参加の納涼祭、クリスマス会の時に書面で行い苦情や要望を聞いていました。アンケートの内容は検討し支援につなげています。苦情はほとんど書かれておらず感謝の言葉が多くあります。また、本人の帰省の希望は少なく、帰られても帰所希望が聞かれホームでの生活を望まれていることでした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日職員ミーティングを行い、意見があればその都度話し合っている。	毎日職員ミーティングを行い、意見があればその都度話し合っている。	アンケートを行ったり、面会時に意見を伺い対応していました。職員一人一人が利用者向き合い支援できるように、連携が取られていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスを職能に応じ支給している。	ボーナスを職能に応じ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を積極的に受けて貰っている。また外部で必要な研修への参加を促している。現在はリモート研修等を行っている。	法人内の研修を積極的に受けて貰っている。また外部で必要な研修への参加を促している。現在はリモートにて研修をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加したり、リモートにて参加し交流を図っている。	グループホーム協会の研修に参加して交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し意向を聞いている。	入居前に本人と面談し意向を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し意向を聞いている。	入居前に家族と面談し意向を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅の場合、ケアマネージャーから情報収集している。	在宅の場合、ケアマネージャーから情報収集している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る能力の把握に努め、教えて頂く機会を作っている。	出来る能力の把握に努め、教えて頂く機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム あかし

自己	外部	項目	事業所名		外部評価	
			ユニット名(栴番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加してもらったり、面会時に口頭でホームの様子を伝え情報を共有している。現在は月一回のお電話・お手紙で知らせている。家族にしか出来ないことはお願いしている。	行事に参加してもらったり面会時には情報を共有し家族しか出来ないことはお願いしている。今はコロナウイルス拡大の為面会は出来ませんが月1回のお電話・お手紙にて近況を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人が会いに来る。 コロナウイルス拡大からは電話がかかってくる。	教会での友人が会いにきている。時々手紙など送られて来る。	コロナ禍であり友人等に会うことに制限がありますが、地域で生活されていたことを大切に、電話や、手紙などを活用されていました。安全を図りながらできる限り地域での生活を大切にしていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様は同じテーブルにしたり、職員が間にはいり、話しやすい環境を作っている。	職員が間に入り話しやすい環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行った入居者様や自宅に帰った入居者様に会いに行く機会を作っている。 現在は電話・手紙で連絡をとっている。	特養に入居された入居者様に会いに行く機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め本人の代弁者になっている。	担当職員を決め本人の代弁者になっている。	担当職員を決めて聞き取りを行っていますが、関わりの浅い職員等には職員同士協力して寄り添い、様子から察し想いを汲みとり代弁していました。利用者が自立した毎日を送るために想いや意向の把握に努めていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・面会時・お電話にて家族や本人から生活歴を聞き把握している。	入居時に家族や本人から生活歴を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に家族や本人から一日の過ごし方を聞きその人なりに生活出来るように支援している。	入居時に家族や本人から一日の過ごし方を聞きその人なりに生活出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。	本人・家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。	介護計画には毎日寄り添い支援をする中、本人の思いや家族の希望や要望を取り入れていました。入居時に家族から在宅生活の様子を聞き、できていた事をホームでも継続し本人に合った介護計画になっていました。チームで支援できる様計画され、モニタリングでは介護計画の見直しがされていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や毎日のカンファレンスで気付いた事を話し合いケアにいかしている。また毎月のアセスメントもケアにいかしている。	ケア記録や毎日のカンファレンスで気付いた事を話し合いケアにいかしている。また毎月のアセスメントもケアにいかしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム あかし

自己	外部	項目	事業所名		外部評価	
			ユニット名(杏番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れている。また訪問美容院も取り入れている。	必要に応じ、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れている。また訪問美容院も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援を行っているがコロナウイルス拡大の為現在は行っていない。	買い物支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が月2回回診に来ている。またターミナルケアを行っている。	嘱託医が月2回回診に来ている。またターミナルケアを行っている。	入所時に嘱託医の説明を行い、月2回の往診が行われていました。かかりつけ医の希望は家族にお伺いしていますが、ほとんどの利用者がホームでの嘱託医による往診を行い、家族に報告していました。ターミナルケアについても入所時に説明し、対応していました。また必要に応じたターミナルケアの説明は都度されていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば嘱託医に連絡し状況に応じ看護師又は訪問看護師が対応してくれる。	何かあれば嘱託医に連絡し状況に応じ看護師が対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーにて情報提供を行っている。	入院時は介護サマリーにて情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応を家族から聞いている。全ての家族からホームでのターミナルケアを望んでいる為、重度化、ターミナルの方針を家族に聞き同意書にサインを頂いている。	緊急時の対応を家族から聞いている。全ての家族からホームでのターミナルケアを望んでいる為、重度化、ターミナルの方針を家族に聞き同意書にサインを頂いている。	ターミナルケアについては、入所時に本人家族に説明され確認が取れていました。本人家族からは、ホームでできるケアで穏やかな終末を希望されていました。ケアにはその都度必要に応じた確認を行い、医療機関との連携もできていました。また他の事業所から看護師の協力も受けていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法・AEDの研修を受けている。	救急法・AEDの研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難誘導訓練を行ったり、消火器の使い方を教えてもらっている。消防団にはホーム内の点検をしてもらっている。	昼夜を想定した避難誘導訓練を行ったり、消火器の使い方を教えてもらっている。消防団にはホーム内の点検をもらっている。	既定の避難訓練等は行われていました。年1回地域消防団が参加して、アドバイスを受けて、安全面の確保に努めていました。立地的に河川が近くにあり、職員や他事業所やグループホームとの協力もできていました。また他の法人との協力もあり避難の受け入れを行っていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修を行い、プライバシーに努めている。	プライバシーについての研修を行い、プライバシーに努めている。	利用者のプライバシーは研修等を行い守られていました。基本的な、トイレの入口は閉める、個人の情報は他利用者の居るところでは話さない事等はしっかり行っていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム あかし

自己	外部	項目	事業所名		外部評価	
			ユニット名(壹番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が進んで入居者様と会話・傾聴を行い会話のなかから本人の思いや希望を聞いている。	職員が進んで入居者様と会話を行い会話のなかから本人の思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を聞き支援している。	本人の意見を聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を本人に選んでもらったり行事などには化粧をしたりしている。	洋服を本人に選んでもらったり行事などには化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを入居者様に相談したり調理・盛り付け・片付け等で出来る力を把握して一緒にしている。	食事のメニューを入居者様に相談したり調理・盛り付け・片付け等で出来る力を把握して一緒にしている。	利用者と週2回買い物に行き、何が食べたいか、好きなものは何か等相談をしていました。できる調理は一緒にし、片付けの食器洗いは利用者にお任せしていました。外食も月1回位していましたが、コロナ禍のため出かけることができませんでした。出前を取るなど食事に変化をつけ楽しんでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で把握している。	食事チェック表で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行えるよう支援している。	毎食後、口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元にパターンを把握している。又は介護度・病気・年齢等によりおむつを使用することもある。	排泄チェック表を元にパターンを把握しておむつゼロを行っている。	自立排泄に力を入れた支援をしていました。入所時はリハビリパンツを利用されていましたが、1週間ほど様子を伺い、支援することでマイパンツ(布パンツ)を使っている利用者もいました。体調不良時等は、必要な支援を行い利用者が快適な日常生活を送れるよう支援されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳・黄粉・食物繊維が多い食品を提供している。	ヨーグルト・牛乳・食物繊維が多い食品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁時や本人が入浴したい時に入浴を行える様にしている。	便失禁時や本人が入浴したい時に入浴を行える様にしている。	入浴は本人の希望する時間に利用していました。原則週2回入浴を行います。排泄の失敗等ではシャワー浴を利用していました。利用者の多くは女性ですが本人の希望でほとんど同性介護が行われていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠時には横になれるよう声掛け・支援を行っている。又、屋敷をされたい方には休んで頂いている。	傾眠時には横になれるよう支援し、屋敷をされたい方には休んで頂いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム あかし

自己	外部	項目	事業所名		外部評価	
			ユニット名(栴番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人が何の薬を服薬しているか、又副作用についても把握している。	誰が何の薬を服薬しているか、また副作用についても把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を常時準備し散歩等の支援も行っている。本人の趣味を把握して行って頂けるよう支援している。	嗜好品を常時準備し散歩等の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族も一緒に外出出来るように支援している。又、外に出て好きな物を食べられるよう地域の協力もあり外食の機会を作っている。コロナウイルス拡大の為現在は出前をとっている。	家族も一緒に外出出来るように支援している。又、外に出て好きな物を食べられるよう地域の協力もあり外食の機会を作っている。コロナウイルス拡大の為現在は出前をとっている。	日常的には、周辺散歩を行っていました。コロナ禍で制限があり家族との外食はできないため、お弁当を持って、人混みの少ない河口湖や勝沼等に出かけ、楽しみを提供していました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたいものがあれば一緒に出かけている。コロナウイルス拡大の為現在は職員が欲しいものを聞き買いに行っている。	買いたいものがあれば一緒に出かけている。コロナウイルス拡大の為現在は職員が欲しい物を聞き買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡して欲しい時には代わりにかけている。又、家族からの電話はご本人にで頂いている。家族からの手紙は本人に渡している。	家族に連絡して欲しい時には代わりにかけている。家族からの手紙は本人に渡している。家族からの電話は、ご本人に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度計にて不快がないように管理している。室内の清潔にも心掛けている。また季節を感じて頂ける様、季節の行事も行ったり飾ったりしている。	温・湿度計にて不快がないように管理している。室内の清潔にも心掛けている。また季節を感じて頂けるよう季節の行事も行ったり飾ったりしている。	季節を感じられる空間の提供を心がけていました。季節の様子を伝え、花を飾って楽しむようにしていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子以外にソファがあり、好きな所に座って頂いている。	椅子以外にソファがあり、好きな所に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具等を持って来て頂き馴染みの物を全て使用している。	自宅で使用していた寝具等を持って来て頂き馴染みの物を全て使用している。	今までの生活習慣を変えないように筆筒の持ち込み、使っていた布団、茶わん、箸を家から持ってきていただいていた。本人の今までの生活、家族との関わりを大切に支援がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口やトイレが分かるようにしている。	居室の入り口やトイレが分かるようにしている。		